

# 水稲新品種「アリアケ」について

岡田正憲\*・藤井啓史\*・木村弘美\*・西山 寿\*

OKADA, M., FUJII, K., MOTOMURA, H. and NISHIYAMA, H.  
A New Variety of Paddy Rice Plant. "Ariake"

昭和34年度に本品種の育成を終り、昭和35年から佐賀県において奨励品種に採用され、同年4月通称名をアリアケ、登録番号を水稲農林124号として普及されるに至った。ここに育成の経過ならびに特性の概要を述べて参考に供する。なお本品種の育成に直接従事した職員は山川寛、天辰克己(兼務)、および筆者等である。

## 来歴並びに育成経過

アリアケは昭和26年、農林省九州農業試験場において西海47号(ベニセンゴク)を母として全勝26号を父として人工交配を行い、その後も同場で系統育種法により育成を行ったものである。昭和30年度より羽系500の系統番号で指定県に配付して系統適応性検定試験ならびに特性検定試験が開始された。昭和32年2月以降「西海57号」の系統名で関係県に配付して原種決定試験に供し、地方的適否を確めた結果、その成績良好で昭和35年4月(F<sub>6</sub>)に水稲124号に登録されアリアケと命名された。

## 特性概要

イ. 形態的特性 草状はナカセンゴクに似て穂数型に属する。稈長はナカセンゴクより僅かに長く、穂数も多く、穂長は同程度である。稈はやや細く、止葉がやや直立し、草状は良好である。熟色はきわだつて美しく、籾には白色の短芒が少し有つて脱粒しやすく、粒着は中位で玄米は中粒であるが、やや長味をおびている。品質、食味ともに良好で農林12号に劣らない。

ロ. 生態的特性 北部九州では出穂・成熟期ともにナカセンゴク程度の中生の晩で粳種である。南部九州では早生～中生、瀬戸内沿岸地方では晩生である。

倒伏には中位であり、葉イモチ病、枝梗イモチ病、白ハガレ病、紋枯病に対しても中位の抵抗性を示し、穂首イモチ病にはやや強く、イネカラバエには強い。試作成績を総合すれば生産力はかなり高く、中生でありながら晩生の農林18号にまさるとも劣らぬ位の収量を示している。

## ハ. 適地 この品種の最も長所とするところは

(1) 中生でありながら晩生に劣らぬ程度の多収性を示すこと。(2) 品質食味が良好であること。(3) 熟色がきわだつて美しいこと 等である。また稈の強さ、病害虫に対する抵抗性は調和的に備つており、特に強いとはいえないが反面に大きな欠陥もみとめられない。昭和32年度以降3ヶ年にわたつて各県に配付して地域適応性が検討されたが、九州ならびに四国、中国、近畿地方の一部にわたつて主として平坦部から山麓部にかけて適応地帯はかなり広いものと思われる。九州では通称名の通り有明海周辺に最も適する。ただし十石程度の倒伏難を要求する特殊肥沃地帯を除く。また中山間部にも一部入りうるものと思われる。佐賀県のほか昭和36年度には熊本県で奨励品種候補、福岡県で優良品種(準奨励品種扱い)としてそれぞれ県査定会に提出される予定であり、その普及が期待されている。

ニ. 栽培上の注意 この品種は特性上大きな欠陥がないので普通の栽培管理を行えばほとんど失敗はない。特に注意すべき点をあげると次の通りである。

(i) 倒伏に対してはベニセンゴクと同程度であるので極端な多肥栽培を行わないこと。また特殊肥沃地帯で十石程度の倒伏難をのぞむところには不適である。

(ii) ひどい秋落地には不適である。

\*九州農業試験場

配付先における成績総括表

配布地域	年次	配付 個所数	概 評						収量比 100	
			奨励	極 有望	有望	やや 有望	再 検討	見込 なし	以上	未 満
九州	昭32	15			5	5	5		8	7
	33	17		1	7	2	7		11	6
	34	19	1	1	6	8	2	1	9	10
	35	14	1	2	8	2	1		10	4
その他	昭33	10			3	1	6		5	5
	34	13			1	4	5	3	6	7
	35	9			2	3	4		5	4

(iii) 本来葉色がやや淡いので、追肥の量が過剰に

ならないよう注意すること。

### 結 言

水稲品種の最近の動向としては次第に早生化の傾向にあること、品質食味が重要視されつつあることである。この意味で本品種は好適しており、品質食味の点では宝、ホザカエ、ベニセンゴク、ナカセンゴク等に、熟期の点では農林18号、同12号等の栽培地帯に普及が見込まれる。